

第4回教師みらいセミナーが開催されました！

令和7年度 第4回教師みらいセミナー

10月25日（土） 9:30～12:00 @宮崎南高校

◎内容

「教科の学びの未来を考える

～カリキュラム・オーバーロードへの挑戦～」

・宮崎大学教育学部 講師 中村 大輝

◎参加者数

会場参加 54名 オンライン参加 40名 計94名



第4回となる今回は、「カリキュラム・オーバーロード（学びの過負荷）」を切り口に、これからの学校教育をどうデザインしていくかをテーマに開催されました。

冒頭で中村先生から、「AIの進化や環境問題、グローバル化など社会の急激な変化の中で、学校での学びをどう再構築するかが問われている」とのお話がありました。新しい内容（プログラミング、金融教育、主権者教育など）が次々と加わる一方で、教育内容は飽和状態にあり、時間的余裕が十分でない現状が指摘されました。そのうえで、「限られた時間で何を、どのように学ぶべきか」をデザインすることが必要と話されました。続いて、「カリキュラムの構成原理」という視点から、学校で学ぶ教科が「専門家養成のため」だけでなく、「市民として社会を生きる力を育てるもの」であることが示されました。たとえば、数学は数学者になるための学問領域というだけでなく、社会のデータを読み解き、AIや経済の仕組みを理解する基礎となる「数学的リテラシー」を育む教科でもあります。こうした「市民としての教養」をどう位置づけるかが、未来のカリキュラムを考える鍵であることを強調されました。

セミナー後半では、体験型ゲーム「スクール・マネジメント～未来をつくる教室～」に取り組みました。まず、参加者が“学校運営者”となり、12教科に50ポイントを配分して独自のカリキュラムを作成しました。そして、各ラウンドで「ニュースカード」（例：AIの普及、地球温暖化、ファストファッション問題など）をランダムに引き、その出来事に対応するために「どの教科が重要か」をグループで話し合いました。

議論の中では、それぞれのニュースに対して、「家庭科は環境問題への意識を高める学びにつながる」「社会や理科の視点がAIの倫理を考える基礎になる」など、意見が交わされました。単に点数を競うのではなく、教科が社会課題とどうつながるかを体感する学びとなりました。

最後の振り返りでは、「社会で求められているものが、学校の教科に繋がっていくので、探究活動などが重要になっていくと思った」、「知識だけではなくて自分の経験とかを活かしながら人に伝える力が重要」、「物事に対する考えを皆で共有して、議論を深めていくことが大事」などの意見が出されました。参加者一人ひとりが未来の学校やこれからの学びに必要なことについて考える貴重な時間となりました。

セミナー終了後、閉講式が行われ、受講生を代表して矢野碧衣さん（宮崎南高校）に、戸ヶ崎教育学部長から参加証明書が授与されました。

受講者の感想より

○グループで意見を交換するときに自分とは違う意見もあり、こういう目線で見ることできるのかと自分にはなかった新しい視点で課題を捉えることができました。限られた時間の中でどのような授業をすれば子どもたちのためになるのか考えることができ、教員になりたいという気持ちが強くなりました。

○「教科の学び」というテーマについて深く考え、意見を交換しながら学ぶことができ、小学校教員を目指している自分にとって様々な視点を養う機会にすることができました。学校教育において起こりうる様々な場面を想定し、その際に必要な知識や力が何なのか、そしてそれを培うことのできる教科は何なのかを議論することもでき、教師としての視点を考える充実した時間になりました。今日やこれまでのセミナーでの学びを通して、より宮崎県で教師になりたいという気持ちが強くなりました。宮崎大学で教育について学びを深め、子どもたちに寄り添ったあたたかいメリハリのある指導を行うことの出来る教師を目指したいと思っています。